2021 年度　秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年度にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目については KOAN 上での回答を行っていたが、2019 年度からは、KOAN 上での回答率の低さを改善すべく、すべてマークシート方式に変更した。2020 年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QR コードを利用した非接触型の WEB 形式に切り替えた。本年度も同様の方式を採用している。実施期間は以下の通りである。

2021 年度秋冬学期アンケート回答期間：2021 年 1 月 11 日～2 月 7 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、20.6%であった（2020 年度春夏学期：42.3%, 同年度秋冬学期：20.3%）。

2021 年度春夏学期授業改善アンケート　講義科目
対象科目数･回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	4	135
	行動系科目	12	85
	社会人間系科目	12	92
	教育系科目	17	91
	共生系科目	8	29
大学院科目	共通科目	5	19
	行動系科目	5	16
	社会人間系科目	8	11
	教育系科目	10	24
	共生系科目	4	11
G30 科目		21	55
計		106	568

回収数 568／受講登録者数 2759＝回収率 20.6%

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より､授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

2021 年度秋冬学期は春夏学期に引き続き新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から授業形態が対面・オンライン・ハイブリッド型と多様化したことを受け、統一的な方法を取るべく、授業改善アンケートを WEB 形式に切り替えた。アンケートの回収率は 20.6%となり、同様の方式で実施した 2020 年度秋冬学期の 20.3%から 0.3 ポイント上昇しているものの、紙媒体で実施した 2019 年度秋冬学期の 73.8%と比べると大幅に低下している。未曾有の変化への対応に追われた 2020 年度から 2021 年度の調査にかんしては前年度以前の実績と比較しえないとはいえ、授業を担当した教員からも形式変更に伴う回収率の低下を危惧するコメントがあった。そのため 2022 年度春夏学期以降は過去の調査でも回収率の高かったマークシート方式に戻すことにした。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.34 となり、学生の授業への満足度は例年通り高い（2020 年度秋冬学期 4.36）。学系別集計によると、G30 の学生が「非常に良かった」と回答した割合が 67.3%と前年度より 15.4 ポイント上昇している点が特徴として挙げられる。G30 提供科目は、問 9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても唯一 50%を越えており、専門的知識の習得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問１の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 90.1%と前年度並みであった（2020 年度秋冬学期：91.4%）。また、問２の「この授業の予習・復習にあてた１週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは 30.5%となり、同年度の春夏学期 13.0%よりも悪化している。例年、春夏学期よりも秋冬学期の方が予習・復習時間は短い傾向にあるが（2020 年度春夏学期 12.3%、同年度秋冬学期 25.2%）、これに加えて、授業のオンライン化による課題提出状況の管理等と関連させて理解すべきものであると考えられる。

問３「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に関しては、「適切」であるとの回答が 77.6%と前年度並みであったが（2020 年度秋冬学期：76.5%）、授業内容の理解度を尋ねる問４「授業内容はよく理解できましたか？」は「強くそう思う」という回答が 22.4%と前年度より 2.8 ポイント上昇している（2020 年度春夏学期：19.6%）。授業方法の工夫等を尋ねる問８「授業方法および資料についても、十分に工夫・準備されていましたか？」に対して「強くそう思う」と答えた学生の割合が 37.0%と前年度並みに高い値となったことからも、教員・学生双方に大きな負担が生じている状況にあっても、授業で扱う教材選定の適切さや、授業の進行形式の十分な工夫・準備がなされており、そのことが問 10 の高い満足度の維持に寄与しているといえる。

以下より、2021 年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

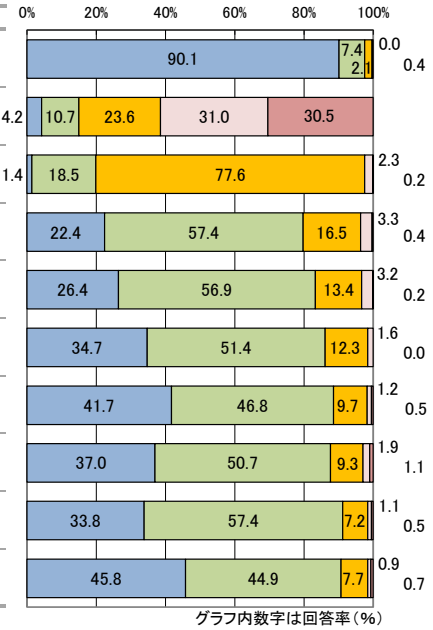
授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2021年度秋学期

全体集計

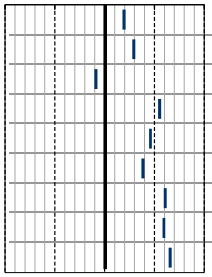
履修者数	2759
回答数	568
回答率	20.6%

番号	内容	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか?	4.87
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか?	2.27
3	授業内容の難易度はどうでしたか?	3.19
4	授業内容はよく理解できましたか?	3.98
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか?	4.06
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか?	4.19
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか?	4.28
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか?	4.21
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか?	4.23
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか?	4.34



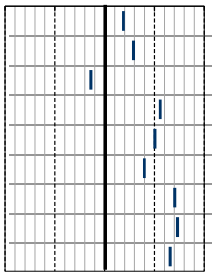
グラフ内数字は回答率（%）

【Q9との相関】



		相関係数
Q1	出席率	0.195
Q2	予習・復習の時間	0.292
Q3	授業の難易度	−0.088
Q4	授業の理解度	0.553
Q5	シラバスの内容	0.460
Q6	シラバスとの整合	0.385
Q7	興味・関心	0.608
Q8	授業方法と資料	0.595
Q10	総合評価	0.657

【Q10との相関】

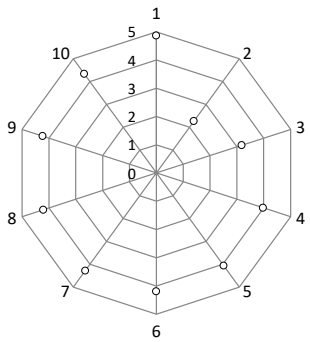


		相関係数
Q1	出席率	0.189
Q2	予習・復習の時間	0.291
Q3	授業の難易度	−0.137
Q4	授業の理解度	0.558
Q5	シラバスの内容	0.505
Q6	シラバスとの整合	0.399
Q7	興味・関心	0.703
Q8	授業方法と資料	0.731
Q9	学問的知識	0.657

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	−
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「−」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

【質問別得点】



○　全体平均

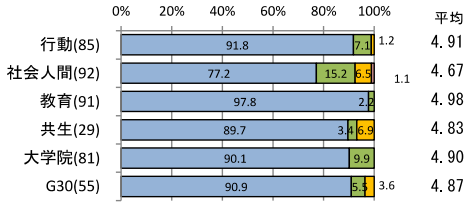
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2021年度秋学期

学系別集計【全体】

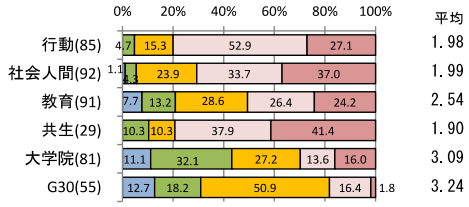
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	–
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

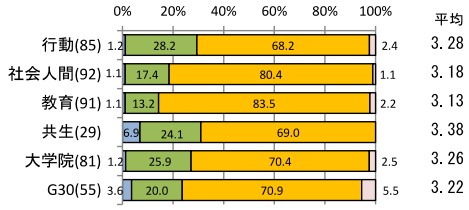
1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



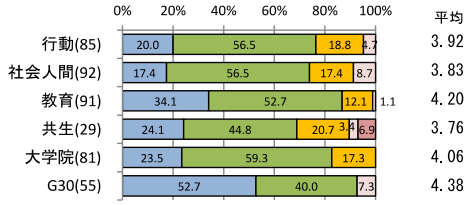
2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



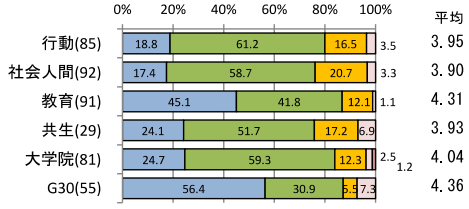
3．授業内容の難易度はどうでしたか？



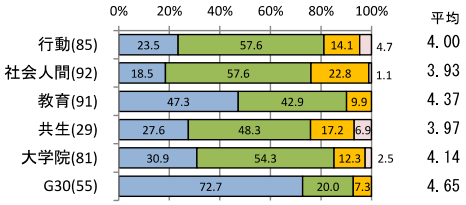
4．授業内容はよく理解できましたか？



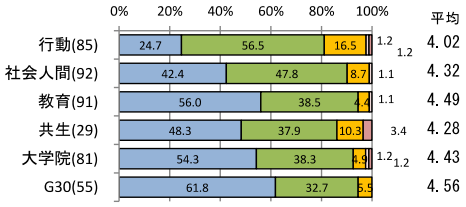
5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



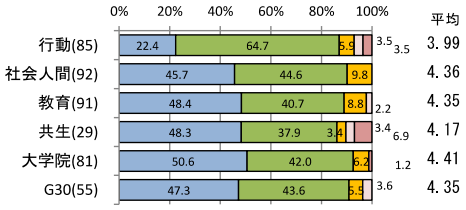
6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



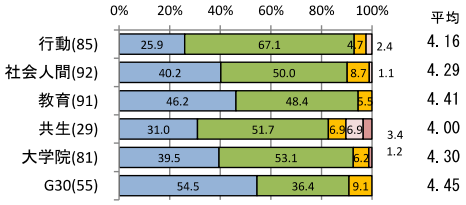
7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



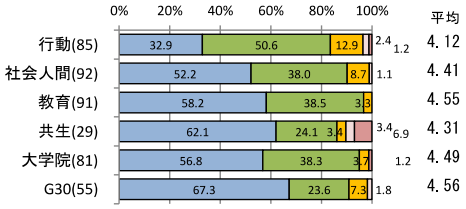
8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



１０．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ)。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 106 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 14 科目であり、平均値 4.34 を上回ったのは 7 科目であった。

2021 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	共生社会論Ⅲ	14	4.79
2	教育工学Ⅰ	21	4.76
3	コミュニケーション社会学	46	4.63
4	臨床心理学概論	24	4.54
5	教育と社会	14	4.36

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	環境行動学特講Ⅰ	11	4.64
2	人間科学方法演習	11	4.36

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

教員名：管生聖子	教育学概論
コメント ⇒アンケートへのご回答ありがとうございました。オムニバス形式で複数の教員が実施する授業でしたので、回ごとで方法などが異なったこともあり、そのメリットデメリットの感じ方には受講生の差が出たように思います。出席率も高く興味をもって講義に臨んでくださった方が多かったようで、受講生自身の学びへの姿勢の積極性を感じます。 対面での実施を希望する声が複数ある一方で、個別にオンライン実施を希望する声もあったこと、講義資料の配布に関してのご意見も来年度の参考にしたいと思います。	

教員名：木村涼子	教育と社会、教育環境学実験実習、教育社会学特講
コメント ⇒まず授業改善アンケートの回答率が低く、もっと受講生に協力を呼び掛ける形にすればよかったと反省です。14 人の回答（全体の 17.7%）があった「教育と社会」について、おおよそ全体平均と同じような回答傾向であったが、「学問的知識が身についた」という回答が全体よりもやや多かったのは、こちらも意図していたことなので、よかったと思います。「予習復習の時間」については、1 週間まとめると 1.5 時間から 3 時間であったことについて、どのくらいの時間が適切なのかむずかしいところですが、もう少し増えるよう、課題の出し方や、感心をもってもらえる授業内容の工夫をしていきたいと考えます。	

教員名：中井　宏	安全行動学
コメント ⇒アンケート調査の依頼以降、私が発熱したため授業が行えず、アンケート協力を呼びかける機会がなかった（自発的に回答してくれた学生が 2 名いたようだが…）。次年度も対面とオンラインの併用を予定しているが、オンラインに関しては好きな時間に見られるようオンデマンドのほうが負担が少ないとのことなので、その方向で検討したい。	

教員名：野坂祐子	臨床教育学実験実習Ⅰ・Ⅱ、教育分野に関する理論と支援の実際
コメント ⇒実験実習については、どちらも課題が多く、また個人ではなくグループで研究に取り組む内容であったので、協働する大変さがあったと思いますが、いずれも熱心に取り組まれていてよかったです。達成感が得られたようで、何よりです。今後も引き続きがんばってください。 　講義への評価の回答者が限られていたので、全体としてはわかりませんが、積極的に学ばれていたようでよかったです。対面授業とオンラインの併用でしたが、授業形態については今後もよりよい形を考えたいと思います。	

教員名：渥美公秀	共生行動論 I、共生行動論演習 II
コメント ⇒今年度は回答者数が極端に少なく１～２名（例えば、共生行動論Ⅰ　履修者 29 名　回答者 2 名）なので、アンケートの結果に立ち入らずに全体的な印象を述べる。共生行動論 Ⅰ（講義）も共生行動論演習 II もともに対面で実施できることが多かった。短時間のディスカッションも持つことができた。確かに、オンライン授業よりもコミュニケーションが円滑に進んでいるようにみえるが、おそらく、みかけの円滑さによって隠されてしまっている問題もあると思われる。来年度は今一度、コミュニケーションの量や形ではなく、いわば質に注目して授業を進めたいと改めて感じた。	

教員名：稲場圭信	共生社会論Ⅲ

コメント
⇒
感染症対策をしてほぼ対面、最後２回の個人ステイトメントの取り組みのみオンライン形式になりました。

昨年度の電子書籍『阪大生の宣言文』（https://amzn.to/3uq31N4）と同様に、個人ステイトメントを電子書籍で刊行します。

授業の内容に関しての興味・関心と授業の工夫がともに４．６４、全体として良い授業 ４．７９だったので、よかったと思います。

教員名：西森年寿	教育工学Ⅰ、実験実習 III、特定演習 II、特別演習 II

コメント
⇒教育工学Ⅰは完全オンラインでしたが、アンケートの値は昨年より少しよかったようです。学生の様子がわからない状態（カメラオフ）でやっているせいか、どの程度関心をもって聞いてくださっているものか自信がなかったので、意外ではありました。ただし、学生さんから提出してもらったワークの結果（学生のみなさんの意見など）が多すぎて、うまくさばけないなという回が多くて、うまくやれていないなという自覚はあったのですが、実際、それは残念だったというコメントをもらいました。来期は、これはもう少し改善したいなと思っています。

研究室のゼミ系の授業（演習や実験実習）もこのところあまりうまく回せていないなという自覚はあり、それは点数とも一致しているなと思います。こちらはあたらしい先生が分野に来られるので、なにか新展開をと思っています。

教員名：岡田千あき	生涯教育学演習

コメント
⇒今年度の授業に参加してくれた皆さん、授業改善アンケートに答えてくれた皆さん、ありがとうございました。今年度もコロナの影響があり、途中で計画を変更したり、予定していた授業ができなかったりということがありましたが、皆さんが柔軟に対応してくれたおかげで内容的には充実した授業ができたと喜んでいます。分野が違う受講者の皆さんも多く、どこまで皆さんのニーズに合った授業が提供できたかわかりませんが､評価アンケートの結果を見て安堵しています。また、機会があれば受講してください。ありがとうございました。

教員名：老松克博	臨床心理学特講Ⅱほか

コメント
⇒今年度の臨床心理学特講Ⅱは，少しでも深層心理学に親近感を持ってもらおうとヴィジュアル重視の内容にしてみましたが，それでもなじみにくかった方はおられるようです。「学問」としてアタマで理解しようとすると，生きている臨床の姿はまったく捉えにくいでしょう。しかし，そういうところにこそ，実証主義的なものの見方だけでは掬い取れない臨床の機微が含まれています。教科書には書いてないような知恵をわかりやすくお伝えするためにいっそうの工夫をしなければ，と思います。

教員名：福岡まどか	文化人類学演習Ⅱ

コメント
⇒アンケートのご回答ありがとうございました。アンケートの中ではおおむねポジティブな評価を受け取りましたが、一点のみ授業の難易度についてよく分からないという回答がありました。これは、文献資料などの選定にもかかわる重要な点だと思いますので、これについては、次年度以降授業の中でもその都度確認しながら進めていきたいと考えております。また、予習時間が少なめであったので、その点についても確認しつつ授業を行っていきたいと思います。

教員名：吉川徹	経験社会学
コメント ⇒履修数 72 名。回答数 3 件で有効回収率は 4.17%です。社会調査の意義を教えているのがこの授業。授業改善アンケート回収率の低さは、受講生が有効なデータ収集と無駄なデータ収集を判別するリテラシーをしっかり身に付けたことを示すものだと思います。その点で授業の成果が出ているなと思います。 全数調査のデータの有効活用について、考えさせられる結果です。私の授業をどう改善すればいいかということは、このアンケート結果からはもはやわかりません。	

教員名：村上靖彦	哲学と質的研究、現象学的な質的研究特講、Applied Phenomenology
コメント ⇒アンケートの回収率が悪く申し訳ございません。システムとして今後改善したほうがよいですね。 書いていただけたかたの分については特段問題はなかったとおもうので引き続きしっかり授業を準備したいと思います。	

教員名：篠原一光	人間行動学実験実習Ⅰ、応用認知心理学
コメント ⇒回答者数が少ないため、アンケートへの回答数を増やすよう工夫が必要である。講義科目については予習復習にあてる時間が少ないことが従来から問題であり、今年度も同様の問題があると考えているため、引き続き改善方法を模索したい。	

教員名：藤川信夫	教育人間学演習 II、人間変容論特定演習Ⅱ、人間変容論 II、人間変容論特講Ⅱ
コメント ⇒とくに講義科目については、コメントのやりとりなどの機会を設けるなどの双方向性の確保を課題としたいと思います。	

教員名：澤村信英	国際協力学特講Ⅱ
コメント ⇒すべての受講生は、国際開発や国際協力に基本的な関心と同程度の知識を有していたので、その点において授業は進めやすかった。比較的少人数のクラスであり、また国際的な実践経験あるいは学校現場での実務経験を有する受講生もおり、その経験を生かすような授業づくりを行った。	

教員名：佐々木淳	臨床心理学概論
コメント ⇒まずは多くの方に回答していただいたことに感謝もうしあげます。全体的にポジティブな評価をうけており、ほっとしています。対面とオンラインを併用することやスプレッドシートの使用によって、出席しやすくインタラクティブな授業にできたかと思います。次回もまた工夫して臨みたいと思います。	

教員名：檜垣立哉	共生の人間学特別演習
コメント ⇒今年もコロナ禍のもとで対面と遠隔の併用にならざるをえず、また一月のオミクロン株の件で、それ以降はすべて遠隔になったが、その割にはうまくできたかなとおもう。 大学院演習としては相当数の人数がでていたので、教室が小さかったことは確かで、少し考えたい。	

教員名：檜垣立哉	共生の人間学Ⅱ
コメント ⇒今年もコロナ禍のもとで対面と遠隔の併用にならざるをえず､また一月のオミクロン株の件で、それ以降はすべて遠隔になったが、その割にはうまくできたかなとおもう。出席してくれたひとは皆さん熱心でかつ、真面目にレポートを作成してくれており、頼もしかった。	

教員名：檜垣立哉	共生学概論
コメント ⇒共生学概論は今年もコロナ禍のもとで対面と遠隔の併用にならざるをえず、また一月のオミクロン株の件で、それ以降はすべて遠隔になった。そのなかで（すでにコロナ状況には教員もなれているとはいえ）さまざまな不都合があり、とりわけ、チームに分かれてのミーティング的なことが（特に対面では）できなかったということが致し方がないが、コロナ禍自身どこまでつづくか不明なため、今後を反省してくみなおしたい（逆に遠隔だと簡単にできるところがパラドックスのように感じてもいる）。 なるべくオムニバス的でないように心がけたがそうとられた部分もあり改善にいかしたい。	

教員名：岡部美香	教育思想史特講、教育人間学
コメント ⇒アンケートへのご回答、コメントのご記入をありがとうございました。さまざまな行事と重なり、授業時間が十分に確保できなかったことについては申し訳ございませんでした。来年度は、授業回数をきちんと確保できるように、様々な予定を調整したいと思います。 それにもかかわらず、いずれの授業においても活発な議論を展開していただき、ありがとうございました。私自身が授業内での皆さんとの交流を楽しむことができました。この点は、来年度にも生かしていければと思います。	

教員名：中野良彦	生物人類学
コメント ⇒生物人類学の授業について、人間科学部の学生に関しては、分野的に異なる研究室（他系や他講座）の学生が多かったため、専門性よりも一般教養的な内容を中心とした。ただし、他学部からの受講生の方が内容について高い興味を示し、質問なども受けた。 同様の理由から、予習、復習が必要な授業形態ではなかったため、この項目のポイントが低いのは当然であると思われる。その他の項目については予想よりもポイントが高くなっており、各自の専門外の知識として受け入れられていたのではないかと考える。	

教員名：髙田一宏	教育文化学、コミュニティ教育学
コメント ⇒回答への協力を呼びかけるのを忘れためか、回答はそれぞれ 1 名と 3 名しかなかった。これでは数値的な評価はまったくできない。大いに反省している。 なお、出席率は常時 8 割～9 割であり、期末になっても出席率は下がらなかった。また、授業の最後に感想や質問をカードに書いて提出してもらったが、その内容からも受講生はおおむね授業内容に満足していたと思われる。	

教員名：千葉　泉	共生の技法Ⅰ
コメント ⇒　学生との間のコミュニケーションをさらに改善することで､授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握し、迅速にフィードバックを行うことで、受講生のニーズにより対応した授業の構築に努めたいと思います。	

教員名：青野正二	環境評価論
コメント ⇒　今年度秋・冬学期に担当した講義の授業は対面授業で実施した。アンケート結果において質問別得点の分布を見ると、当科目の得点は、学系別集計（講義）の行動学の平均とほぼ一致する傾向であった。また、全体平均と比較しても同様であった。ただし、項目 1～10 について、当科目の値と平均（行動学平均，全体平均）の差（の絶対値）に着目すると、その差は、項目 2～10 では 0.4 未満であったのに対し、項目 1（出席率）では約 0.9 とやや開きが大きくなっていた。これは、学生によっては体調不良であっても出席することが懸念されたため，本授業ではあえて出席を取らないようにしたことが原因であると思われる。実際に、コロナ禍以前は、今年度よりも出席率は高かった。なお、出席できない学生には、配付資料などを事前にあるいは事後に CLE にアップロードすることで対応した。	

教員名：足立浩平	Multivariate Data Science、多変量統計科学
コメント ⇒ 数理系の学問は難解さを伴うため，すべてを把握するのは難しいです．そこで，「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で，大雑把にエッセンスを把握することに努めてください．	

教員名：平井　啓	心の健康教育の理論と実践
コメント ⇒「心の健康教育の理論と実践」では、心理教育プログラムの企画やコンテンツ作成を行う上でのフレームワークを提示し、それを使ったグループなどを行っている。講義前半が講義中心、後半がグループワーク中心となっている。今年度は、前半の講義のリアクションペーパーに、関心のある心理的社会課題を記入してもらい、それに基づくグループわけを行った。それによってグループワークの議論ならびにアウトプットの質が大きく向上した。来年度も今年度の成果をとりいれた授業改善を行いたい。	

教員名：鹿子木康弘	比較発達心理学特定演習Ⅱ、比較発達行動学（発達心理学）
コメント ⇒ 演習系の授業では、想定内の評価を得ることができた。 講義系の授業では、コメントに対するフィードバックに多くの時間を割いている点をネガティブに指摘している人が数名いたが、昨年の授業では好評であった部分であるので判断が難しい。この感想が 60 人中の数名なのか、大半なのかを見定める必要がある。しかし、来年度からはコメントに対するフィードバックの時間をもう少し少なくする予定にしている。 また、難易度に関しては、適切という意見が多かった。昨年は、普通からやや易しめとの回答が多かったのでその点は修正できたかと思う。また、予習と復習に関する時間が少ないので、そのあたりを充足させるために、もう少し課題に比重を置いてもよいかと思うが、逆に学生の負担となることもあるので、そのバランスを見極めないといけない。	

２０２１年度人間科学研究科／人間科学部　秋冬学期授業アンケート回答結果　計２６名分